

現在は、結婚式での仲人のあいさつ(新郎新婦の紹介)や、あらたまった儀式などでのスピーチについて、同様のデータベースを作成中である。

梵文法華經の計量分析

立正大学 仏教学部 伊 藤 瑞 叡
統計数理研究所 村 上 征 勝

法華經は数ある大乘仏教經典の中でも後世に最も大きな影響を与えた經典である。

法華經の原典は *Saddharmapundarika* というが、その成立時期及び地方については問題がある。一般に紀元2世紀頃から西北インドで順次成立したとされるが、28品のどの部分がいつ頃成立したのか、また最古層は2世紀頃成立したとしても、全体が完結して現在の形になったのがいつ頃なのか等、未解明の部分が多い。

インドの古い文献では記述された年時を記す例は稀で、記される事実や言語上の特色、説かれる思想の成熟度などから推定を行なうという研究方法がとられる。法華經についても、正統インド社会以外の特殊な集団で説かれた教えであること、思想史的観点から概ね4つの段階を経て現形となったこと、社会経済史的視点から紀元40年～220年頃に主要な部分が成立していたこと、等の主張がなされている。この他にもこの問題を論究した研究は多いが、いずれも細部においては一致せず、未解明のままと言ってよい。

今回の研究は、単語及び文法的な情報をもとに、成立順序の推定を統計分析によって試みようとするものである。今回は分析方法及びデータベース作成における問題点について報告した。